

(参考 1)

東京国立近代美術館工芸館について

所在地：東京都千代田区北の丸公園 1-1

施設概要：開館時間 10：00-17：00

休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、展示替期間、年末年始

施設概要：土地 敷地面積 4,512 m²

建物 建物面積 929 m² 延床面積 1,858 m²

(機械室を含め約 2,500 m²)

収蔵品数：3,682 点（平成 27 年度末現在）

工芸館は、陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなど、近現代の工芸およびデザイン作品を展示紹介する東京国立近代美術館の分館として、昭和 52（1977）年 11 月 15 日に開館しました。建物は、明治 43（1910）年 3 月に建てられた、陸軍技師・田村鎮（やすし）の設計による、近衛師団司令部庁舎を改修して美術館仕様の建物としたものです。

第 2 次大戦後、荒廃したままに放置されていた旧司令部庁舎は取り壊しの対象となりましたが、明治洋風煉瓦造建築の一典型として、また、官公庁建築の遺構としても重要なことから、その建築的価値を惜しむ声がよせられ、昭和 47（1972）年 9 月に、「重要文化財に指定のうえ、東京国立近代美術館分室として活用する」旨の閣議了解がなされ、同年 10 月、「旧近衛師団司令部庁舎」として重要文化財に指定されました。

外観と玄関、広間の保存修理工事を施し、谷口吉郎による展示室の設計に基づく内部の改装によって、工芸部門の展示施設として再生された建物は、昭和 52（1977）年 11 月、東京国立近代美術館工芸館として開館しました。修復にあたって、屋根は建築当初のスレート葺に復元され、正面ホールから 2 階に伸びる両袖階段に往時の重厚な装いを見ることができます。ゴシック風の赤煉瓦の簡素な外観は、四季折々に周辺の樹木と調和して、独特のたたずまいをみせています。

(工芸館外観)

